



ぎんれいだより

H31年春号

編集：公益社団法人銀鈴会

東京都港区新橋 5-7-13

ビュロー新橋 901

電話：03-3436-1820

ぎんれいだより NO.9

2019年4月1日発行

2019年度

活動にあたって

会長 松山 雅則



喉頭摘出者発声訓練士の資格制度を確立しました。現

昭和29年（1954年）9月、赤坂のお寿司屋さんの2階で10数名の会員でスタートしたと云われる銀鈴会も今年で65年目を迎えます。節目の年として銀鈴会創設者たちの「声を失った喉摘者が声を取り戻し、社会復帰をしてほしい」という強い思いが蘇ります。先人たちは、笛式人工喉頭による発声が全盛の中、食道発声を実践し、教材を整備して食道発声の普及をはかりました。全国の喉摘者団体は連携して日喉連認定

在では全国どこでも同等の訓練が受けられるようになっていきます。一方、医療技術の進歩で単純喉摘手術数は減少していますが、食道再建手術が増え、高齢者と女性会員も増えていきます。発声方法についても食道発声が多数であることは変わりませんが、職場復帰を急ぐ方はシャント発声、高齢者はEL発声を選択する方が増えるなど、喉摘者を取り巻く環境も変化しています。銀鈴会としても、これらの変化に適応させながら活動を進めているところです。そこで今年度の総会、声の祭典は費用節減と会員さんの便宜を考慮し、昨年までの信濃町の東医健保会館ではなく、発声訓練が行われる田町の障害者福祉会館にて行う予定です。また新たな取り組みとしては、ベトナム（ホーチミン）での発声教室開設支援があります。ベトナムからの強い要望を受けて2年前から進めてきたプロジェクトですが、この度、JICAの支援が決定しました。ベトナムの沈黙の喉摘者に希望の光を届けられればと思います。

建手術が増え、高

平成30年度第39回

家族座談会

平成31年2月16日（土）港区三田の東京都障害者福祉会館にて、銀鈴会特別常任顧問の福田宏之先生をお招きして座談会を開催しました。座談会には、会員、その家族合わせて120名を超える参加者がありました。



スピーチ発表会&座談会風景

座談会では、手術による後遺症の悩み、日常生活での悩みを、医学的見知からは耳鼻咽喉科専門医の福田先生、日常生活につ

平成27年に始まった賛助会員制度も皆様のご支援で順調に育ってはおりますが、更に入会の輪を広げ、頼れる組織に成長させていきたいと思っておりますので、今年度も皆さま方の一層のご協力、ご支援をよろしくお願いたします。

平成30年度第5回

スピーチ発表会

家族座談会前に行われました「第5回スピーチ大会」は、17名の出場者がクラスごとに日頃の練習成果を披露しました。家族の皆さまも出場者の発声上達に驚いた様子で大きな拍手を送られていました。



最後に福田先生の講評での確なアドバイスをいただき、参加者一同とても勉強になりました。

◆福田宏之先生の講評

皆様のスピーチをお聞きし本当に感銘いたしました。

私は代用音声のリハビリ専門家ではありませんので、講評というより

感想を述べさせて戴きます。皆さまの飽くなき努力、情熱などに深く感銘を受け私も勉強になりました。初心から始まり上のクラスに進むにつれ、だんだん発声力が上手くなっていくのだと、スピーチをお聞きし良く理解できました。

声の祭典「スピーチ大会」

とき 2019年6月15日(土)
ところ 東京都障害者福祉会館

スピーチ発表された皆さま有難うございました。

東京都表彰受賞

おめでとうございます

◆ 東京都知事賞

声友クラブ副委員長

佐々木 慎六氏

平成30年12月3日(月)新宿区の東京都庁第一本庁舎 大会議場に於いて銀鈴会声友クラブ副委員長の佐々木慎六氏が「障害のある方々の



自立を支援する事業に尽くした功績が顕著である」と、自立支援功

労者として平成30年度障害者福祉関係知事賞を受賞されました。また、佐々木氏は今回受賞された6名を代表して謝辞を述べられました。

◆ 東京都社会福祉大会表彰

○専務理事 太田 時夫氏

○常務理事 渡邊 操氏

平成31年2月4日(月)、東京都、社会福祉法人東京都社会福祉協議会、社会福祉法人東京都共同募金会の共催により「第67回東京都社会福祉大会」が東京都庁第一本庁舎大会議場にて開催されました。

銀鈴会より専務理事の太田時夫氏と常務理事の渡邊操氏が東京都社会



渡邊 操氏



太田 時夫氏

福祉協議会より「喉頭摘出者への社会復帰支援に尽力されて」表彰されました。

**喉頭摘出者団体アジア連盟
平成30年度AFLA活動報告**

平成30年度AFLA加盟国での食道発声研修会は、南インド・チェンナイで実施しました。参加延べ人数は143名、同伴家族を含めると243名になり、食道発声研修に対する期待の大きさが伺われました。

研修の大きな目的は、①食道発声の普及を目指した徹底的な個人指導による会話力の向上②チェンナイ地区に設立された喉摘団体の指導員及び指導員候補者の育成——です。

4年前、チェンナイ大学病院の医師Dr. マニを中心にチェンナイに喉摘協会の設立に向けた取り組みがあり、その支援のため銀鈴会から指導員を派遣しました。その時に指導した会員の中から4名の指導員が誕生したことは、特筆すべき大きな成果だったとの現地からの高評価から、この度の研修会につながりました。この研修を主催されたDr. マニはCRR T財団を設立し、その団体からの助成を得て研修参加者の宿泊や食事の提供などで、多くの遠隔地の参加者を集めていただきました。

5日間の研修成果としては、①全

17名が原音或いは2、3音の発声に成功②5音以上の発声上達者6名③短文章を話せるレベル到達4名④2名の指導員候補者選任——などでした。研修最終日には、研修参加者全員に1名ずつ壇上でマイクを持ち、発声練習の成果を発表してもらいました。ほぼ全員が声を発声することができるようレベルで獲得した第2の声をしっかりと大きく発声し、会場から温かい拍手と感嘆の声、また涙ぐむご家族の方もおられたりと、感動に包まれた発表会となりました。

チェンナイ喉摘団体には、この研修で得た成果により更に上を目指し1名でも多くの喉摘者の社会復帰に



研修最終日感動の一コマ

貢献できる活動を期待するところで、す。なお2023年を目標にまた計画するのて来てほしいとの強い要望を受けました。



**草の根技術協力事業
採択の決定報告**

当協力事業の目的は、「ベトナム喉頭摘出者に対する食道発声教室開設と発声訓練体制の確立」です。2017年4月から準備をしてまいりましたが、2020年早々に事業開始となります。一昨年2017年では不採択になった案件で、再チャレンジで念願が叶いました。

JICA（独立行政法人国際協力機構）は日本の政府開発援助（ODA）を一元的に行う実施機関として、開発途上国への国際協力を行っています。銀鈴会はこの協力事業をJICAから委託され実施するものです。なお、この事業計画については、「ぎんれいだより」NO.6及び8号で報告しています。銀鈴会ホームページでもご覧いただけます。

**10回全国喉摘者
発声大会開催**

平成30年11月17日（土）第10回全国喉摘者発声大会が厚生労働省後援により、NPO法人日喉連と（公社）銀鈴会の共催で東京都新宿区の東医健保会館にて開催されました。



食道発声の部から16名、ELの部から8名の方々が、全国各ブロックの予選会を勝ち抜き決勝大会に進みました。

予選を勝ち抜いた大会とあって実力伯仲でしたが、厚生労働大臣賞を獲得した（公社）銀鈴会の斉藤陽一氏は、喉摘者とは思えないほど素晴らしい歌声とスピーチで聴衆を魅了されました。ELの部では、いずれ劣らぬ大接戦の末、北九州創声会の築昭子氏が1位を獲得されました。

なお、この大会は、公益財団法人JKAによる「オートレース公益資金」の補助を受けての実施です。



**平成30年度 代替音声
巡回指導研修会開催**

日本財団の助成を受けて銀鈴会が実施する巡回指導研修会は、歴史を重ね本年で17年目を迎えました。今年度は以下の3県で実施しました。詳細は「銀鈴」66号とホームページに掲載いたします。

- ◆山口県山口喉友会
期間 平成30年10月21～24日
参加者 西村武剛会長他延べ48名
派遣講師 秋元洋一副会長
渡邊操常務 篠田乃武子指導員
- ◆鹿児島県鶴鈴会
期間 平成30年10月28～31日
参加者 井之上博範会長他延べ39名
派遣講師 齋藤康夫常務
栃木英美子理事 篠清一監事
- ◆長野県信鈴会
期間 平成30年11月6～9日
参加者 上篠和男会長他延べ72名
派遣講師 松山雅則会長
鈴木正子理事 大貫榮二理事

新事務局長紹介

平成30年10月1日付けで高梨泰弘氏に代り新事務局長に武内進氏が就任しました。よろしくお願いいたします。

♡賛助会ご加入とご寄付のお願い♡

身近な方々の
ご理解とご協力をお願いいたします。



年会費

- ・法人賛助会員 1口 5,000円 6口以上
- ・個人賛助会員 1口 5,000円 1口以上



公益社団法人銀鈴会
事務局長 武内 進
〒105-0004
東京都港区新橋 5-7-13
ビューロー新橋 901
TEL : 03-3436-1820
FAX : 03-3436-3497
E-mail : office@ginreikai.net
ホームページ :
<https://www.ginreikai.net/>

銀鈴会出版部からのお願い
短歌、俳句、川柳の作品を募集いたします。「銀鈴」66号掲載予定、各種1作品（計3作品まで）、6月末締切、右記事務局までお寄せ下さい。

ご支援ありがとうございました

ご寄付及び賛助会費を頂戴いたしました皆様 平成 31 年 3 月末日現在(五十音順 敬称略)

株式会社アトスメディカルジャパン、株式会社インターネットイニシアティブ、有限会社エコプロセス、株式会社オカムラ、三協立山株式会社、医療法人社順康会こばやし眼科クリニック、株式会社スーパーポテト、穂星電子工業株式会社、株式会社鈴木保有社、住石ホールディングス株式会社、住友林業株式会社、泉工医科貿易株式会社、全日本相撲甚句協会、綜研化学株式会社、第一医科株式会社、株式会社第一興商、大新土木株式会社、太成倉庫株式会社、株式会社大和証券グループ本社、大和ハウス工業株式会社、株式会社電制、東京ガレーヂ株式会社、南武建設株式会社、ニチハ株式会社、日本ガレーヂサービス株式会社、有限会社野沢正光建築工房、医療法人社団白翔会、株式会社ハーフ・センチュリー・モア、橋本総業株式会社、原田産業株式会社、株式会社福祉施設共済会、有限会社フジ総合鑑定事務所、株式会社プロティア・ジャパン、三井住友カード株式会社、株式会社三井住友銀行、株式会社明電舎、株式会社名優、株式会社メディカルコーチ、山崎製パン株式会社、医療法人社団良宗会池上皮膚科医院、株式会社レーサム、株式会社ロッテ、和以美株式会社、SMB C 日興証券株式会社、TOTO株式会社、YKKAP株式会社

青木佑一、青山弘、秋元一郎、秋元洋一、浅香高秀、朝田禮一、浅見精二、足立健之助、荒川敬子、荒松允之、有巢皓三、安藤京子、安藤純一、飯島敏禎、五十嵐雅勝、井口英子、池田美代、石井恭平、石川和子、石河文子、石塚康夫、石田研吾、市田治弥、市吉將浩、井手麻喜子、伊藤仁、犬山正人、井上貴之、井上裕子、井上洋一郎、入谷文雄、岩崎堅司、岩崎伸、岩間和夫、上田繁、上原七司、上樫政隆、宇佐美昭夫、江口仁、榎本眞理、江原澄、江原里美、江原節子、大井卓雄、大貫貞子、大貫美智子、大野勇三、大橋敏男、大浜保道、岡島正恒、岡田悠紀子、岡戸富美子、荻原勇夫、奥島茂、奥原修、小澤哲、尾野有代、笠貫達也、梶山和秀、柏瀬幸弘、加藤芙美子、金子豊己、片山浩晶、片山雅美、茅史郎、川井栄助、川崎光夫、川鍋千枝子、岸健作、城所忠男、木下勝男、清田次郎、沓澤昭雄、工藤剛武、窪井純子、久保木昭次、久保力男、熊川喜代司、栗原弘、小島啓三、狐塚博、小谷昌司、後藤清、小濱利重、小林あや子、小中マス子、小林宏、権平清、今野真機子、斉藤博、齋藤隆、齋藤隆治、坂内まち子、左海省司、酒井弘子、坂上典子、相樂多恵子、佐久間博、櫻井卓巳、櫻井正身、佐々木昭夫、佐竹英三、佐藤和人、佐藤圭吾、佐藤賢治、佐藤茂樹、佐藤隆史、佐藤喜重、佐野幸孝、佐野雅次、澤口みよ、山後弘子、山後祐介、鹿内健悦、重松康男、宍倉康雄、篠清市、篠田乃武子、篠奈津子、篠美登里、柴尾邦江、柴田清、芝満雄、島田厚子、島田初夫、島田真由美、清水泉、清水和夫、清水勢津夫、清水保良、下里岩二、朱宮裕子、正願地孝子、白井芳郎、杉山喬、鈴木綾子、鈴木邦忠、鈴木時子、鈴木文雄、鈴木正子、鈴木三智子、鈴木光子、砂長治、隅谷貞子、隅谷政紀、相馬麻衣子、醍醐輝世、高橋敏夫、高橋剛、高橋もと子、高橋孝壽、高橋保夫、高原明美、高山幸明、武田達幸、武田祐爾、田尻直樹、橘巖、立石善一、谷貝忠秋、田原武志、辻文子、寺尾徹、寺澤永祥、栃木謙治、中岡利子、永井一男、永井芳子、中台庄次、中西昭雄、中西正夫、中村宗夫、名越一郎、新美典子、西野宏、西村恵三郎、新田清剛、長谷川サイ、長谷川良克、花嶋良直、馬場茂、馬場一寿、浜野耕平、林宏一、半田建二、東幸子、引間善二、檜森聖三、平澤玉吉、廣瀬肇、藤井玉江、藤田清、藤原桂子、藤森良一、舩越建治、二木芳彦、古川寿、古部貞雄、寶崎和人、星芳文、堀満、堀池泰之、堀江知江子、本田学、本間廣俊、前田知子、牧野清、正木壽子、増田惣一、増田正毅、松井昇、松岡宏、松清平、松下成孝、松嶋宏、松田幸雄、松田行雄、松本博、松山光志、松山寿美子、松山雅哉、松山雅則、眞辺致一、右田正隆、水島雅晴、水野壽夫、三田村一雄、宮原厚夫、宮本啓三、村田恵子、村松繁雄、村本高史、森本孟子、八木清文、八木又一郎、矢島藤人、矢代三江、安田祥子、安野智、谷田部元吉、柳葉君代、柳葉藤枝、山岡弘尚、山岡弘幸、山岡義雄、山岸正央、山口明、山口春吉、山口平男、山崎浩子、山田善宣、山寺勉、山村利司、山本勇、山本一雄、山本恵子、横井俊三、横江良市、吉田一男、吉田伸弥、吉田久乃、吉田美保子、吉野充聡、脇田誠照、和田栄子、和田重章、和田義文、渡辺恵一、渡辺忠義、渡邊鐵雄、渡邊正雄、渡邊操、渡三夫、王美林、E. K.、F. K.、F. H.、H. H.、H. M.、M. J.、N. M.、N. T.、O. T.、O. Y.、S. K.、S. M.、T. M.、T. K.、Y. S.、Y. N.、Y. Y.